

標 題 : Consumption of Olive oil and Specific Food Groups in Relation to Breast Cancer Risk in Greece
オリーブ油および特定食品群の消費、ギリシャにおける乳癌リスクとの関連で

著 者 : A. Trichopoulou, et al. (ギリシャ アテネ公衆衛生大学 栄養生化学科)

掲 載 誌 : J. Natl. Cancer Inst. 87: 110-116 (1995)

要 旨 :

背 景 : 他種類の油脂摂取とは対照的にオリーブ油摂取は化学的に誘発される乳癌の発症を高めないと実験動物の研究で示唆されるが、ヒトのデータは少ない。

さらに主要栄養素とは異なって、女性の乳癌の原因としての食品群の役割に関して証拠は結論に到達していない。

目 的 : 乳癌リスクに対するオリーブ油、マーガリンおよびさまざまな食品群の影響を評価して定量するために、この解析を実施した。

方 法 : 乳癌の女性 820 人および研究拠点からの対照女性 1548 人で施行した広範囲な半定量食品頻度アンケートからのデータを用いて、オリーブ油、マーガリン、および一連の食品群の摂取を 5 段階に分けて、オッズ比(OR)および線形トレンドの X 統計を計算した。

生殖の危険因子、エネルギー摂取量、および相互交絡の影響の調整を無条件ロジスティック回帰モデルで実施した。

結 果 : 野菜摂取および果物摂取は別々にそれぞれ 5 段階増加当たり 12%および 8%の統計的に有意な乳癌リスク低下と関連した ; 検討した他の食品群では有意な関連はなかった。

オリーブ油摂取の増加は乳癌リスクの有意な低下と関連したが(1日1回超と1日1回との OR=0.75[95%信頼区間=0.57-0.98]、マーガリン摂取の増加は有意なリスク上昇と関連した(月に4回の増加で OR=1.05[95%信頼区間=1.00-1.10])。

オリーブ油の関連は一見したところ閉経後女性に集中したが、関連する相互作用項は統計的に有意でなかった ; 野菜、果物、マーガリンの摂取と閉経状態との相互作用は示されなかった。

結 論 : 本研究を含めた大部分の研究で主要栄養素の主な栄養素は乳癌リスクと有意な関連を示さないが、野菜および果物はこのリスクと有意で強い逆相関をする。

オリーブ油摂取は乳癌リスクを低下させる可能性があり、マーガリン摂取はその疾患リスクを上昇させると見えるとの証拠もある。
